

京の二大巨匠が手作業を重ねて完成

◇180年の伝統が息づく、入魂の「焼型鑄造法」

六代目 南條勤三郎 略歴

昭和21年、京都市生まれ。昭和44年、父にして5代目の南條勤三郎に師事し、鑄物の道に入る。平成19年に6代目を襲名。翌年、京の名工として知事表彰を授かる。氏の南條工房は「天保10年南條勤三郎作」の銘が入った祇園祭の囃子鉦が伝わるほどの老舗であり、180年以上の伝統技法で仏具を作り続ける。



鑄造
銅と錫を溶かした砂張を窯からすくい、鑄型に流し込みます。失敗は許されない最も緊張する瞬間です

◇皇室献上作家の手描きが冴える「蒔絵技法」

下出祐太郎 略歴

昭和30年、京都市生まれ。昭和52年、漆芸家の東端眞禰、佐治賢使に師事。平成9年度京都市芸術新人賞、日展20回連続入選など多くの受賞歴を誇る。皇室の即位の礼や大嘗祭、第61・62回伊勢神宮式年遷宮の蒔絵作品を手掛けたほか、60点もの漆工芸品を迎賓館に贈呈した国の伝統工芸士。



毛打ち
蒔絵の仕上げの一つ。盛り上がった面の上に細筆で線を描く繊細な作業。絵の善し悪しがこれで決まります

頒布価格(税込) 『瑞龍』

4寸 月々10,353円×12回(計124,236円)一括115,500円
(実質年率13.69%)

3.5寸 月々8,874円×12回(計106,488円)一括99,000円
(実質年率13.69%)

芸術と文化の殿堂 100周年
東京書芸館 美しい音色と蒔絵の色彩のご確認はこちら▶ 東京書芸館 検索

■他の金属おりんとは比べものにならないほど、妙なる音色を響かせる「砂張おりん」。ひとたび打ち鳴らせば、清らかな余韻が永続し、大切な祈りの空間を優しく包み込みます。また、長年使い続けることで音が良くなるという、御仏壇に末永くお祀りできる仏具として大切に扱っていただけます。

■砂張とは銅に錫を多く含ませた金属で「佐波理」とも呼ばれます。錫の量が多いほど音色が美しくなるものの、鑄造段階で壊れやすく、制作には高度な技術が必要とされます。

■本作「瑞龍」は京都の熟練職人たちが手作業を重ね、制作した渾身の傑作。まずは180年以上の歴史を持つ、南條工房の六代目・南條勤三郎氏が、伝統の「焼型鑄造法」を駆使。手作りの鑄型に砂張を流し込み、冷え固まった後、削りと磨きを繰り返して、おりんの形と音律を整えていきます。その後、表面に「漆焼き付け」を施し、皇室献上を賜る京蒔絵師・下出祐太郎氏が迫力に満ちた瑞龍を緑・赤金の蒔絵で緻密に描き込みました。

■漆黒に浮かび上がる龍はまさに威風堂々。格の高い五爪で握りしめるのは満願を叶えるときされる宝珠です。立派な角や鬚、全身を包み込む鱗、天空で躍動する雄々しき姿まで見事というほかなく、瑞気に満ちています。

■御仏壇にお祀りになり、りん棒で打ち鳴らせば、妙なる音色が仏様の耳にも届き、ひいては大切なご故人様の心に寄り添うことにも繋がります。日々の

ご親族が集まる場にふさわしい逸品

お勤めをはじめ、ご親族が集まるお彼岸やお盆などの仏事にもふさわしい傑作です。職人たちが魂を込めて作り上げた仏具の集大成を、この価格でお手元に置ける機会は今しかございません。今回は「4寸」「3.5寸」を各10点限りでご用意。他社様ではお求めいただけない弊社オリジナル作品となりますので、この好機にぜひご所蔵ください。

おりんの付属品を無料進呈!!



お申込み方法 ハガキ・FAX・ネットまたはお電話で、お申し込みください。

お届けは受注から約2ヵ月後。発送手数料は一点につき660円(税込)。一括払は代金引換・クレジットカード、もしくは現品到着後10日以内の振込(代引・振込手数料弊社負担)。分割払はクレジットカードもしくは口座からの自動引落とし。クレジットカードご利用時は各クレジットカードの規定に準ずる。現品到着後8日以内なら取返なき限り、送料自己負担でご返品可。当社基準により、ご希望のお支払い方法にそいかなる場合がございます。※個人情報取扱に関する内容は当社ウェブサイトにてご確認ください。

〒140-8536 東京書芸館 FAX(24時間受付) 03-3762-7609 フリーダイヤル 0120-807-577

使い込むほど音が良くなる名品



東京書芸館オリジナル作品
砂張おりん
空間に響きわたる妙なる音色、永続する美しく清らかな余韻、皇室献上を賜る京蒔絵師と創業180年の老舗鑄物師が生んだ傑作。

瑞龍

各限定10

4寸
3.5寸

■素材:砂張、漆焼き付け着色、漆上げ磨き蒔絵(共通) ■寸法(約):[4寸]高さ6.5×直径12cm、重さ625g [3.5寸]高さ5.5×直径10.6cm、重さ470g [4寸りん台]高さ5.8×幅14×奥行12.4cm、重さ200g [3.5寸りん台]高さ5×幅12.2×奥行10.8cm、重さ130g ■りん台、りん棒、りん棒台、りん布団つき

京の名工鑄物師 六代目南條勤三郎 京蒔絵師 下出祐太郎 作